「特別な人」

学校長　笠　原　　究

３年ほど前から，自宅の裏庭で小さな家庭菜園を作っています。全くの素人ですが，義母の助言に従って作業していると，秋にはトマト，ピーマン，なすなどがそれなりに収穫出来て，大変ありがたく思っています。そうした野菜で作るサラダは格別です。不思議なのは，同じように手を掛けても，発芽の時期はばらばらですし，生育のスピードもそれぞれ違うというところです。苗ごとに実る果実の数も違います。まるで子育てのようですね。私には３人の子供がいますが，同じ両親，同じ家庭環境の下で育ったはずなのに，３人とも見た目や性格が全く違っています。不思議なものです。

農作業と教育はよく似ていると思います。同じ教材を使い，同じ指示を与えても，受け取り方は子供一人一人で違います。こちらで伝えたいと思うメッセージと，子供が受け取るメッセージは，ぴたりと一致することはないし，子供たちの間でもぴたりと合うことは稀です。植物と同じように，芽が出る時期はそれぞれに違うし，最終的に咲かせる花もそれぞれに違います。「世界で一つだけの花」で歌われているとおりです。そういう意味で，私たち一人一人が「特別な人」なのだと思います。

「特別な人」と聞くと，私たちは，大谷翔平選手や三苫薫選手，テイラー・スウィフトのような秀でた能力を持った人を想像しがちです。しかし，みんなそれぞれに違っているという意味では，みんなそれぞれ特別な人なのです。私も含めて人間というものは，とかく比べたがります。他人と比べてこの部分は優れていると喜んだり，この部分は劣っているとくよくよしたりします。子育て中は，どうしても自分の子供を他の子供と比べてしまいます。私も子供が学校に通っている頃は，ほかの子供たちと比べてハラハラしたり，くよくよしたりしたものでした。

でも，みんな「特別な人」なのだから，比べる必要もないし，くよくよする必要もないのだと，自分の子供が手を離れた今になってつくづく思うのです。成長が多少遅かったり早かったりはするものの，いずれはどんな花を咲かせてくれるのか，楽しみに待っていればいいと思います。先ほどの歌の歌詞にある通り，「その花を咲かせることだけに，一生懸命になればいい」のですね（とはいうものの，子育て中はなかなかそういう心境になれないのも事実ですが）。

本校の先生方は，もちろん一斉指導もしますが，学びの過程をよく子供たちに委ねています。自分のペース，やり方で学ぶことを積極的に進めています。そして，それぞれが発見し

た異なるメッセージを常にほかの人と共有させています。こうした過程を通して，子供たちがそれぞれ「特別な人」である自分を受け止め，ほかの「特別な人」たちを受け入れて協力する態度を育てようとしています。違っているからこそ，この世界は循環し，調和していけるのです。これからも保護者の皆様と協力し，たくさんの「特別な花」を咲かせていきたいと思います。